



○心理や発達障害について学んでいる人は、自分や周囲の人を「○さんは△障害を持ってるから」と判断する傾向があります。私もその一人で、完全に自分は ADHD(注意欠如多動症)だと思っています。年を重ね、脳の海馬や前頭葉が弱ってきた今、その傾向はより強くなっています。片付けができない、物をよくなくす、やりたいことをすぐやってしまう、趣味が、水泳・山登り・映画鑑賞・外国語学習・旅行・木工・パラグライダー・スポーツ観戦・車・アイススケート・スキー・美術館巡り、など多種多様(残念ながら全て三流)なのは、私が ADHD だという証拠です。その趣味の一つにバイクがあります。小学生の頃から車は好きで、多くの友人がバイクに夢中になっていた高校時代も、私の興味関心は車だけでした。その高校時代、周囲に流されて、原付免許だけはとり、友人の持つスーパーカブに乗って、バイクの爽快さに少し目覚めました。自分のバイクは、必要に迫られて大学生の時に買ったヤマハ GR50。バイト先への通勤や、当時住んでいた埼玉から宇都宮の実家までの帰省、そして初めて遠出した松枝岐温泉への旅などで使っていました。その GR50 はバイト先近くの駅に停めておいたところ、誰かにいたずらされ、壊れたため廃棄、それからバイクとは疎遠でした。30 代後半、我が家の子育ても一段落し、交代制勤務で平日の午前中や午後にできた自由な時間の使い方を模索したとき「自動二輪免許をとろう」が頭に浮かび、即実行。私の体格から、そして取得がより簡単な中型自動二輪免許をとりました。そして何度か顔を出していたバイク屋で、ずっと目をつけていたヤマハセローを手に入れたのです。子どものように嬉しくて、嬉しくて、最初のライディングは、毎日見ていた高原山頂までのオフロードラン。林道、と思っていた道が登山道だと分かった時は既に遅く、下山してくる登山者と目を合わせないように静かに走らせましたが、あの時の気まづさは忘れられません。その後はずっと通勤で使い、妻が子どもを連れて実家に帰省した時などは「そうだ佐渡に行こう」と宿直勤務明けにテントと寝袋、ガストーブをセローに積み、佐渡を目指したこともありました。佐渡のドンデンキャンプ場から見下ろした日本海の絶景は忘れられません。そのセローも 20 年前に EV バイクに代えてしまい処分しましたが、その EV バイクが大失敗。とにかくスピードが出ず、日本製ではなかったこともあり、すぐに壊れてこれも処分。バイク無しの生活になりましたが、それ以降も時々レンタルバイクでツーリングを楽しんでいます。最近、英会話クラスの友人から「田仲さん、ツーリングに行きましょう」と誘われ、彼が持つ 4 台のバイクの 1 台を借りて山登りすることがあります。私のバイク歴では、初めて高原山を登って以来、ずっと一般道走行が主でしたが、友人はもっぱら廃道になりかけた山道を走破するのが趣味。瓦礫と水路轍の道無き道ばかりで、何度か転び怖い思いもしましたが、コツを掴んで面白さが分かってきました。この走りで気が付いたことがあります。一般道ではあまり気にせず走っていた道の状態を、詳細に検証しながら頭をフル回転させて運転しなければならなかったことです。スピードを出せば出すほど、その判断速度をあげなければなりません。山登りでも似た経験をしました。バリアフリーになってきた都市生活では段差のある道は少なく、何も考えずに歩いていますが、山ではどこに石があるか、溝があるか、この先どのルートを行くのか、自分の体力でこの段差を登れるのか、歩くことにも頭を使っていたのです。

子どもが勉強しない、何度も失敗する、そんな時に大人は、「勉強なさい！あなたのためよ」「どうしてまた失敗するんだ！」と今の現象だけに目を向けて、声をかけがちです。子どもには勉強しない理由や失敗する原因があるのです。現象の裏側に目を向けてみると、その子どもにではなく、自分(保護者や教員、友人)に原因があることもあります。ちょっと視点を変えてみると、子どもの言動の理由が分かるかもしれません。うっ、腰が痛い…、原因は昨日のツーリング中の転倒だな……